



ひびき

◆ゆたかなかわりを求めて
夢や希望をもち
未来をひらく子ども

不易～50年前の一ノ木戸小卒業生の思い出～

校長 渡邊 芳久

一ノ木戸小創立100周年の年（昭和48年・1973年）に発刊された記念誌「百年の歩み」には、当時の本田信三郎校長、稲村稔夫市長、酒井誠治教育長、馬場由太郎記念事業実行委員長をはじめとする多くの先達の様々な思いが掲載されています。中には、当時一小を卒業して間もない、10代の方々と思われる玉稿も載っています。*以下、原文のまま

（SKさん*記念誌にはお名前が載っております）

「私が4年前のころを思い出してみても、今一番心に残っていることは・・・？と考えると、最上級生になったばかりの時の修学旅行のことでしょう。みじかい旅行でしたが、友達といっしょに泊まるということがうれしかったことを覚えています。枕なげのやりすぎか、枕のもみが方々にちらばって、次の朝、あわてて掃除したこともありました。その年の1年間、私は児童会長をやっていましたが、そのことで記憶にあることは、放課後、ガリ切りしたことです。夕方、教務室で仕事をしていると、グラウンドでのにぎやかな声が耳に入ってきて、早くそこへ走って行きたくてしようがありませんでした。でも、そんなことを思い出してみると、とても楽しい1年でした。」

（NKさん*記念誌にはお名前が載っております、JKさんかもしれません）

「今考えてみると、一ばん楽しかったのは6年生の時だったと思います。毎年行われるものでは、夜、いつまでもはしゃぎ回った修学旅行や運動会、文化祭。どれをとってみても楽しいことばかりでした。そして一ばん大きなことは、待ちに待ったプールと新校舎が完成したことです。水泳のために、焼けつく暑さの中をもう二中までわざわざ行く必要もなくなり、水泳回数もずっと多くなりました。そして新校舎が完成したおかげで、今まで特別教室の不足がなくなり、よい環境で勉強できたぼくたちは、幸せだったと思います。そして、児童会でも、初めて朝会で音楽会をやり、ライオンズ大会で、わが一ノ木戸野球チームはみごと優勝しました。最後に、ただ一つ、大きな悲しみは、飛行機事故のため、〇〇先生がおなくなりになったことは、ほんとうに悲しいできごとでした。」

（KNさん*記念誌にはお名前が載っております）

「一ノ木戸小学校を卒業して、もう2か月くらいたちました。ぼくはふつうの人とちがう学校にすすんだので、さく年の友だちがなつかしく思われます。今、考えてみると6年生の時の思い出がつぎつぎにうかんでくるようです。修学旅行、町内野球、運動会、そして、児童会会長選挙、卒業式。いろいろきんちょうした思い出が今なつかしくよみがえってくるのです。ぼくは1年間児童会長をつとめてきたのですが、自分の力がたりなく公約どおりにいかない時もありました。公約どおりになったところはみなさんの協力があつたからだと思います。今でもうれしく思っています。」

一ノ木戸小150周年の記念の日まで、あと7か月半です。